

## 第46回 生駒市緑の市民懇話会 議事要旨

1 日時 平成31年4月22日(月) 午前10時～12時

2 場所 生駒市役所4階 403・404会議室

3 出席者

(参加者) 久隆浩座長、下村泰彦、新居延之、井上良作、倉品夏江、澤村章男、  
長尾夏江、日高容子、山田勲、秋山解、植田ひろみ、増田千佳

(欠席者) 高橋美由紀、山田陽子

(事務局) みどり公園課 財満課長、知浦課長補佐、大神所長、上田係長、南、三坂

4 要旨

### ●開会

### ●案件

(1) 平成31年度 みどり公園課所管の緑化推進に係る事業及び花のまちづくりセンターに係る事業概要について

#### ※事務局からの説明

○資料1に基づき、みどり公園課の平成31年度事業について説明

#### ※参加者からの意見

**座長** ボランティアは高齢化だけでなく関わっていただく方が固定化している。今年度新たな担い手に関わっていただけるような呼びかけをお願いできたらと思う。

**事務局** ワークショップを開催して、新たな担い手を発掘していく手法を考えて活動していきたいと考えている。

**座長** 30代40代のママさんたちのグループの方々が事業に関わっていただくようであれば良いと思う。若い人たちは自分たちで企画して運営して活動している。

**座長** ママさんたちのグループが活動しているところに、こちらからコラボできるかということを持ちかけることから関係づくりをしていく。

**委員** 次年度に向けて懇話会からの意見のいただき方を今年度中に検討してほしい。

・コミュニティパーク事業でボランティア養成講座の卒業生に意見をいただく等、事業間の連携も盛り込むことも考えてはどうか

・花と緑のわがまちづくり助成制度に申請している人にコンテストに参加してもらう

・緑の基本計画の見直し

**座長** 令和2年度事業 緑の基本計画の見直しの今後の展望について意見をいただきたい  
**事務局** 現状を把握しているところです。

**座長** タイミング的にはそろそろ見直さなければならないが、事業をやりながら緑の基本計画の策定作業をするのは難しい。

**事務局** 学校の校庭に花を植えてもらうため、指導などできないか検討しているが、学校の先生やPTAも忙しくて手が回らないような状況なので、効率良く進めていく方法がないか意見をいただきたい。

**座長** 協働のしくみづくりとして市職員はコーディネートや支援で体制をどのようにしていくかが必要となる。実際に協働で取り組んでいる鹿ノ台小、上中を分析して、マニュアル化して他校に説明に行くのもいいのではないか。手間をかけずに広めていく工夫をすることが大事である。環境など学校と協創している部署とタイアップするのもいい。

東大阪市の環境基金を学校が使っている。お金を動機付けに環境の取組をしている。学校に対する資金支援、技術支援を表に出していくのも一つの方法である。

**委員** 各学校では毎年取り組みを決めておられるので、生活科、理科で学校とコラボできるところから始めるのもいい。

**委員** 幼稚園、保育園、学校で花づくりに興味がある人がいるので、きっかけづくりをしてほしい。

**委員** 公有地だけではなく民地で補助金交付したらもっと広がると思う。

鹿ノ台ポケットガーデンで5,500本のチューリップを植えて朝日新聞、読売新聞で紹介してもらった。やる気があればできる。

**座長** 緑の基金の募金を増やすための創意工夫はありますか。

**事務局** ふろーらむで募金してもらおうと花苗などをプレゼントしている。

助成金は10年位経つと底をつく可能性があるのですが、ふろーらむで育てた花苗を利用して募金をしていただいた方に寄せ植えをプレゼントするなどして、基金を若干でも増やしていきたいと考えている。

**座長** 行政は周知徹底したいときは営業活動をする必要がある。宝塚市ではイベントブースで子どもを引き付けて親にポスターを見てもらうなど、人の目の触れるところでPRする。

**委員** なばた幼稚園の芋掘り活動に協力している。また、福祉センターの園芸教室に指導している。他にも花苗の指導する人が地域ボランティアにいるのではないか。

**座長** 地域の元気な人にこうした活動があることが届いていないと思う。

学校の校長、教頭、生活指導、理科の先生のうち元気な先生と手を組む工夫をするといい。

例) P T A活動の活性化のしくみづくり

**委員** E C O K A委員会では、小学校3年生と5年生で座学、森林観察など、幼稚園では芋掘り、シイタケ刈り、チューリップ見学会を行なっている。

**委員** 上中、大瀬中に種を買ってもらって、指導して花を育てる雰囲気づくりをする人がいる。また、夏休みに保護者や地域の人で行なったグラウンドの一斉草引きの中での何気ない会話が人と人とのつながりになる。

**委員** 学校内でも花と緑に関心のある先生がいらっしゃると思う。

**委員** 先生は授業で忙しい。

**座長** 難しいのは組織で、地域の人が学校にフォローに入ってもらって。学校が地域にヘルプを出せれば、地域との協働が進んでいくと思う。

**事務局** 花と緑のわがまちづくり助成制度およびコンテストにおいて、学校の参加が少ない要因として考えられるのは、参加の手続きが特に教頭の業務の負担になるから、助成制度を使わなくても学校の予算の範囲内で花や緑を育成しているからなどである。

また、学校を開放するのは安全面から躊躇している学校もある。

**座長** 学校組織にメスを入れることができないか、どこかに糸口があるのではないか、私

たちがフォロー入れることができないかを考える。

**委員** 生駒南中学校では、昨年地域ぐるみで発表しなければならないとき花を植えることになった。地域の方、民生委員、自治会に声をかけた。これが最初の一步になって続いていく。

**委員** 親子ふれあい農業体験は体験したい人は多いが、行くのに不便な場所が多い。まずは園内からスタートして欲しい。

**座長** 児童生徒に考えさせることが必要な内容のプログラムを教育委員会とマニュアルを作って学校に提供してはどうか。

**委員** 街路樹の植替えの現状はどのくらい進んでいますか。

**事務局** あすか野地域の植替えは終わっている。4年で155本のケヤキを撤去し、ヤマボウシやハナミズキに147本に植替えた。

**委員** コミュニティパーク事業での萩の台第5公園について、公園デザインの観点から質を高めるとよい。

**座長** ワークショップの方法として、専門家としての関わり方を考えて意見をまとめるほうが良い。他の公園の情報、より良くするための意見を出すときは、専門家からアドバイスをいただく。専門家と住民との意見の駆け引きが難しいが、行政はそこをしっかりとるコンサルとやっていくことも大切である。

**座長** 制度というのは道具ですから、どう使うかというのはこちらの創意工夫で、一つ具体的な話をすると、大阪市では公園でお金を稼ぐことをされている。地域のまちづくり協議会が公園のベンチを広告事業として収入を地域活動に使う仕組みをつくった。

**委員** 公園は商業施設を呼んできてお金を落とす「賑わい」にここ5～6年で変わってきている。

場所によって違うので、生駒の山の上のほうの並木は売りになると思う。

**委員** コミュニティパーク事業はどのように専門家の意見を聞いたのか。

**事務局** 地域の課題を抽出して整備計画案を作成した。

**委員** どのような人たちがワークショップに参加したのか。

**事務局** 高齢者から児童まで。多いときは30人弱、少ないときは10人弱。

**委員** 今後もプロとしての役割を果たせるような業者に任せられるのか。

**事務局** 入札で決定しているが、今回は過去に生駒市で経験のあるコンサル業者が関わることとなった。

**委員** 他の公園にないものをつくるのであれば、これをPRして行ってほしい。

## ●その他

### ※事務局からの説明

○地域で育む里山づくり事業補助金交付要綱の変更点の説明

### ※事務局からの連絡

○コンテストの現地審査の日程

## ●閉会